



⑤ 属人化の弊害と解消

— 属人化しない組織づくり —

園の運営は、長く経験を積んだ職員の知識や判断に支えられてきました。しかしその一方で、「特定の人に依存する状態(属人化)」は、園に大きな不安定さを生みます。担当者がいないと判断できない、説明が人によって変わる、引き継ぎがうまくいかない等々これらは能力の問題ではなく、仕組みの問題です。AIは人の代わりに判断するものではなく、**園の考え方を共有し続ける仕組み**として属人化を解消します。

属人化の弊害



- 対応が人任せ
- 新人が困惑
- トラブル 続出
- 負担が集中

属人化しない組織の考え方



- ▶ 皆で共有
- ▶ 文化を継承
- ▶ いつでも安心

属人化の主な弊害

- 判断基準が人によって異なる
- 新人が育ちにくい
- 保護者対応の差が生まれる
- 管理職に負担が集中する
- 異動・退職で運営が不安定になる

つまり、属人化とは「優秀な人がいるほど不安定になる構造」です。

属人化しない組織の考え方

1. 理念が判断基準になる

これまでは「ベテランの判断」が基準になりがちでした。

AIに園の理念・方針・対応基準を反映させることで、判断の根拠が明確になります。

- 誰が対応しても方向性が同じになる
- 指導が感覚的にならない
- 個人の価値観ではなく園の価値観で動ける人ではなく理念が運営を支える状態になります。

2. 引き継がれる文化

文化は文章だけでは残りません。

日々の判断と対応が繰り返されて初めて継承されます。

AIは、過去の考え方・対応・言葉の使い方を常に参照できるため、

- 異動しても園らしさが変わらない
- 新人が文化を理解しやすい
- 方針が自然に定着する

文化が「教わるもの」から「体験して身につくもの」に変わります。



3. 相談できる環境

属人化した職場では、相談先が“人”に限定されます。

その結果、遠慮・緊張・関係性による心理的負担が生まれます。

AIを活用することで、

- いつでも確認できる
- 聞きにくいことも相談できる
- 迷いを早く解消できる

相談は特別な行為ではなく、日常の行動になります。

AIを活用した属人化の解消

AIの役割は効率化ではありません。

園の知識・判断・考え方を「個人の記憶」から「組織の共有資産」へ変えることです。

AIは

- 人の代わりに決める存在ではなく
- 人を管理する存在でもなく
- **園の基準を常に示す存在**です

まとめ

属人化をなくすとは、人を減らすことではありません。

人に頼らなくても安心して動ける環境をつくることです。

理念が基準となり文化が継承され誰もが相談できるとき、園は「個人に依存する組織」から持続できる組織へと変わります。

キャンペーン中

ご契約園に
2冊を無料贈呈!!

2026年末まで

1



2



1

AIが答える保育100の疑問

— はじめての園でもできる やさしいAI活用 —

130ページ 定価 2,000 円 (消費税別)

2

保育の質を変えるAI

90ページ 定価 1,000 円 (消費税別)

チャイルドAIアシスタントハウス
https://www.aken.co.jp/item_house.html



https://www.aken.co.jp/item_navi.html



お問い合わせ

株式会社 AI研究所

✉ ai@aken.co.jp

🌐 <https://www.aken.co.jp/>

